

船舶事故等調査報告書

平成26年11月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014那第29号
事故等種類	座洲
発生日時	平成26年6月16日（月） 12時40分ごろ
発生場所	沖縄県うるま市津堅島 ^{つげん} 西方海岸 津堅島灯台から真方位010° 890m付近 （概位 北緯26° 15.4′ 東経127° 56.3′）
事故等調査の経過	平成26年6月25日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（那覇事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート ^{パラセイルスリー} PARASAIL III、5トン未満（長さ9.69m）
船舶番号、船舶所有者等	296-8468 沖縄、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定
死傷者等	なし
損傷	なし
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか1人が乗り組み、スタッフ7人を乗せ、津堅島海岸清掃のため、同島西方海岸から約30メートル沖に設置された係留ブイに船首を北東に向けて係留し、乗船者全員が、手配されたボートで津堅島に上陸した。</p> <p>本船は、南西の風及び波浪により、係留ブイと共に津堅島西方海岸付近まで圧流された。</p> <p>船長は、本船が海岸付近まで圧流されていることを認め、急いで本船に乗り込み、沖に移動するため主機を始動しようとしたが、主機が始動せず、平成26年6月16日12時40分ごろ津堅島西方海岸に乗り揚げた。</p> <p>本船は、後日、漁船に引き出され、えい航されて沖縄県沖縄市泡瀬漁港に入港した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 南西、風力 4、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 下げ潮の中央期</p>
その他の事項	<p>本船は、海水が船尾から機関室に打ち込み、主機及びバッテリーが海水に濡れ、主機が運転できなくなっていたことが、本事故後に分かった。</p> <p>船長は、本船を操船したのは本事故当日が初めてであった。</p>
分析	
乗組員等の関与	あり
船体・機関等の関与	なし
気象・海象の関与	あり

<p>判明した事項の解析</p>	<p>本船は、津堅島西方沖の係留ブイに係留中、風及び波浪により、係留ブイと共に圧流されたことから、同島西方海岸に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>本船は、船長が圧流に気付いて主機を始動しようとした際、主機及びバッテリーが海水に濡れて主機が運転できなかったものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本インシデントは、本船が、津堅島西方沖の係留ブイに係留中、風及び波浪により、係留ブイと共に圧流されたため、同島西方海岸に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機関室の水密性を確保すること。